

英文学科留学プログラム参加者の声

<アルバータ大学（カナダ）>



私は中学生の頃から英語が大好きでした。高校は普通科に進学しましたが、大学では英語圏に長期留学することを夢に英語の勉強を続けていました。留学内定書を貰えたときは心の底から嬉しかったのを覚えています。できるだけ長く留学したい、という理由で他の国より2ヶ月間長く留学できるカナダを選びました。出発の日まで様々なプロセスを踏み、期待と希望を胸にカナダへ向かいました。クラス分けテストを経て通い始めた語学学校の授業形態は日本とはかなり違い、ディスカッションなど自分の意見を求められることが多かったです。先生もかなり自由で、コーヒ一片手に授業する姿に初めは笑ってしまいました。ペアプレゼンテーションや個人でのプレゼンテーションも数回ありました。そのような新しいことだらけの中で、色々なことを考えました。私のクラスは、すでに結婚して家族がいる人たち、仕事をしながら通っている人たちが大半でした。「こどもが熱を出したから授業に行けない」「ベビーシッターが帰ってしまうから、授業が延長しても12時になったら絶対帰らなければいけない」「仕事が忙しくて睡眠不足」など、たくさんの悩みやトラブルを抱えながらも、英語を学ぶために毎日学校に通う彼ら彼女らの姿に刺激を受けながら毎日過ごせました。後半の4ヶ月で受講した Psychology 104 は、とにかく覚えることが多くて大変でしたがすごく楽しかったです。アルバータの学生は本当にいつ見ても勉強していたので意識も高まりました。まるで受験生に戻ったようでした。

この8ヶ月間は本当に夢のようで、一瞬で終わってしまいました。英語まみれの生活に慣れて留学したものの、上手くいかなかったこともたくさんあり、あんなに大好きだった英語がいやになった時期もありました。そんなときは、自分を支えてくれている周りの人のことを考えました。私の「留学したい」という夢を喜んで応援してくれていた両親、留学が決まったことを報告したとき、まるで自分のことのように喜んでくれた友達や彼のことを考えると、いつまでもクヨクヨしてはいられないと思えました。決して楽しいことだけではなかった毎日でしたが、カナダでの8ヶ月は間違いなくこれからの私の人生にプラスになる経験であったように感じます。

今年留学するみなさん、これから始まる留学生活はきっとみなさんにとって素晴らしい経験になると思います。英語に囲まれた生活は、毎日が刺激的で、なにもかもが素敵で、夢のようです。でももし疲れてしまったら、息抜きすることも大切です。みなさんを支えてくれる周りの人に感謝しながら、1日1日を全力で楽しんでください。みなさんの留学生活が最高のものになることを願っています。

————— M.Y. さん

<チャタム大学（アメリカ）>



私はラフリンという寮の4人部屋になりました。ラフリンはチャタム大学の中で最も古い寮で決してきれいとは言えませんが、ハリーポッターに出てくるような味のある建物で私はとても気に入っていました。私の住んでいた階にはシャワーが3つあり、それらを14人が共同で使っていました。朝にシャワーを使う人がほとんどなので夜は自由に使うことができました。私の部屋は4人分のベッドも勉強机も1つの空間にありましたが、大部屋だったので広々と快適に過ごすことができました。ルームメイト同士のトラブルで部屋を移動する人もいましたが、私はとても良いルームメイトに恵まれたと思います。買い物に連れて行ってくれたり、宿題を教えてくれたり、毛布などの生活用品を貸してくれたりルームメイトには本当に感謝しています。しかし、やはり共同生活なので大変な面もありました。私が特に苦労したのは睡眠です。ルームメイトみんな受けている授業が違うので当然宿題や予習、復習の量もそれぞれです。部屋の電気は23時に切るという約束でしたが、個人の電気スタンドは自由だったので1時、2時まで勉強しているということも多くありました。さらに、起きる時間もそれぞれなので毎朝誰かのアラーム音、支度する音で目が覚めてしまいます。睡眠時間が少なくなってしまうことにストレスを感じていましたが、今振り返ってみると共同生活をしたからこそできた貴重な経験だったなと思います。

チャタム大学にはコンバーゼーションパートナーという制度があります。これは週に1度、1時間程度アメリカ人の学生と話をするもので、私は女の子とパートナーになりました。彼女と初めて会ったとき、全く聞き取れず会話にもならなかったのが、ものすごくショックを受けたのを覚えています。忙しいにも関わらず、毎週必ず会って2時間ぐらい話をしてくれました。特に楽しかったのは一緒に料理をしたことです。とても料理が得意な子だったので、いろいろ教えてもらいながらよく夜ご飯をつくりました。アメリカでの生活で分からないことは何でも相談して助けてもらっていたので本当に彼女がパートナーになってくれて良かったと思います。彼女のおかげでより充実した生活を送ることができました。

———— Y.H. さん

<サセックス大学 (英国) >



初日にクラス分けテストをして、その後 **morning class**、**afternoon class** を受講していました。内容は日本でやってきた文法がメインなのですが、授業中のペアワークがとても多くて、リスニング、スピーキングの勉強になりました。発音のミスや似ている単語のニュアンスの違い、前置詞、イギリスの文化など、ネイティブの先生だからこそ教えられることがたくさんありました。大学の施設、クラブ活動もとても充実していて、図書館、ジム、パブといった様々な施設や、映画の **society**、ズンバクラスなど授業外の時間もすることがたくさんありました。クラスの友達も本当にいい人で、いい意味で個性豊かでとても刺激を受けました。誰と話してもみんな明確に将来の目標があり、その夢のために努力していて私自身も頑張ろうと奮い立たせられました。また、クラス内の仲が良く、毎週みんなでご飯を食べに行ったり、旅行をしたりしました。休み時間にはお互いの母国語や文化、食べ物を教え合いました。様々な言語を学ぶのはとても楽しくて、今でも SNS で中国語やスペイン語、アラビア語を教えてもらったりしています。また、授業最後の日には成人式に参加できなかった私たちのために特別な成人式を開いてくれました。この半年間、彼らのおかげで新鮮で充実した毎日を送ることができました。

さらにイギリスにいる間、多くのところへ行きました。コッツウォルズ、スコットランド、ロンドン、リバプール、ノッティンガムなど。またミュージカルやサッカー観戦、博物館(イギリスの博物館はほとんどが無料です!)などイギリスでしかできないことをしました。どこもブライトンとは違った雰囲気の中で、地元の人と話したり、世界遺産を訪れたりして様々な文化に触れることができました。

帰国してから、英語のスキルだけでなく自分の内面も変化したと思います。まず迷ったときはとりあえず挑戦するようになりました。また、日本の文化をより知りたいと思うようになり、京都の歴史的な場所を訪れることが増えました。最近外国の方に日本文化を伝えるイベントなどにも参加して、これからも外国人の方と交流する機会を持ちたいと思いました。

この半年間の留学では得るものがたくさんありました。日本にいたら出会えないような人々、出来事に遭遇し、20年間で一番充実した半年になったと思います。また、それと同時に日本での生活がいかに恵まれているかもわかりました。留学当初の広い視野を持つという目標は達成できたと思います。これから留学に行く方は外国に行って満足するのではなく、目標を明確にして、いろんなことに挑戦してください。半年間はとても短いですが、有意義で充実した留学生活を過ごしてください

———— Y.T. さん

< ウェスタン・オーストラリア大学 (オーストラリア) >



私たちは CELT という UWA の附属の語学学校に通っていました。CELT は日本の春休みと夏休みのタイミングを除けば、比較的日本人生徒は少なかったように思います。レベルの高いクラスに行けばいくほど、日本人がより少なくなるので徹底的に多国籍の生徒と勉強したい、という方には大変良い環境です。

私は計 5 ターム (1 ターム = 5 週間) のうち最初の 2 タームは General English コースのレベル 4、次の 2 タームはレベル 5、最後のタームは IELTS コースで勉強していました。レベル 4 は Intermediate、レベル 5 が Upper-level と位置づけられています。

どのコースでも Reading, Listening, Writing, Speaking の全てのスキルをきっちりと勉強します。4 週目にすべてのスキルのテストがあり、既定の点数を超えると次のレベルへ進むことができます。

私はどのタームでも必ず違う国籍の生徒とペアを組むようにしていました。初めの頃は、相手の英語が聞き取れず、自分の言いたいことも上手く言えず、悔しい思いを何度もしました。しかし、どんなにうまく英語が話せなくても、相手は必ず理解しようとしてくれます。一度、担任の先生に「I can't speak English」と言ってはいけない。どんなに英語が話せなくても、どんなにシャイでも、自分で自分の背中を押さない」と言われたことがあります。CELT では授業中、先生が必ず生徒に意見を求めてきます。たとえば、日本の貿易の主な輸出・輸入品、教育制度、死刑制度などトピックはさまざまです。私はトピックを理解し、なおかつ自分の意見を考えるのに時間がかかるので苦手意識を持っていた。しかし、わからなかったら質問する、というのも大切なことです。単語の意味、問題文の意味など、疑問に思い質問すれば、必ず先生やクラスメイトが助けてくれました。

最初の 5 週間は自分のシャイな性格が災いし、なかなか友達ができず焦ってばかりいました。しかし、このままではいけない! と思い 2 ターム目からは積極的にコミュニケーションをとるようにしました。特に私が心がけたのは必ず「Hi! How are you?」と言うことです。些細なことなのですが、挨拶をきちんとすることで距離もだんだんと縮まり、多くの友達ができました。

余談ですがオーストラリア英語で「No worries」という言葉があります。オーストラリアのリラックスした雰囲気にぴったりな、なにがあっても「No worries!」 「大丈夫だよ」と言える文化がとても素敵だと思いました。

————— K.I. さん